

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 動物科学分科会（第24期・第5回）議事録

1. 日時：令和2年1月24日（金）15：00～17：00
2. 場所：日本学術会議6階 6-C（2）会議室
3. 出席者：岸本健雄（委員長）、寺北明久（副委員長）、深津武馬（幹事）、倉谷滋、西弘嗣、西田宏記（スカイプ）
欠席者：大隅典子、小路武彦、斎藤成也、武田洋幸
4. 議事：
 - (1) 動物科学振興にむけてのシンポジウムの具体化
 - ・前回分科会の方針ー動物科学の多様性と面白さをアピールするシンポジウムを開催ーを確認した。
 - ・演者は、生物科学学会連合所属の動物学関連学会に推薦依頼するのをやめて、講演者候補7名を分科会出席者の討議にもとづき選定した。
 - ・会場は東京大学理学部2号館講堂とし、東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻および新学術領域研究「進化制約方向性」との共催とした。
 - ・シンポジウム日時候補は6月後半の土曜日午後とし、講演候補者と会場の都合により決めることとした。
 - ・シンポジウム当日には、分科会も開催することとした。

（後日メモ）「動物科学の最前線：めくるめく多様性を科学する」と題して5名の講演者で令和2年6月20日に開催とし、第288回幹事会（3月26日開催）での承認も得たが、新型コロナウイルスの感染状況を考慮して、シンポジウムの開催は中止した。開催可能な状況となった際に再考の予定。
 - (2) 提言「国立自然史博物館設立の必要性」（第23期に公表）のフォローアップ
 - ・「マスタープラン2020」に「国立沖縄自然史博物館の設立ー東・東南アジアの自然の解明とビッグデータ自然史科学の実現による人類の持続可能性への貢献ー」と題して応募していたが、9月15日にはヒアリング審査を受けた（後日メモ：「マスタープラン2020」は1月30日に公表され、その中で、本課題は「重点大型研究計画」に採択となった）。
 - ・第6回沖縄シンポジウム「国立自然史博物館誘致シンポジウム」が初めて沖縄県の主催で開催された（令和2年1月20日、那覇市ぶんかテンプス館・テンプスホール；一般社団法人国立沖縄自然史博物館設立準備委員会の共催）。
 - (3) その他
 - ・日本学術会議PSA分科会「畑井新喜司メダル授賞候補者選考委員会」（大越和加委員長）の選考結果について報告があった。
 - ・日本分類学会連合から、生物多様性分野の国費留学生受け入れに関連して、国費留学生制度のあり方（特に申請分野）に関する懸念が文部科学省宛に表明された。